

自然と心の豊かな故郷 湯田学区 広報ふくら

第7号
平成23年6月
編集発行
湯田学区
地域づくり協議会
連絡先
湯田公民館
電話 74-1438
FAX 74-1427

平成二十三年通常総会開催



四月十七日午後七時から公民館で平成二十三年の湯田学区地域づくり協議会の通常総会が開催されました。

最初に評議委員会の協議を経て新年度の役員体制(右下に掲載)が承認され、今年度の連合自治会長の近藤信行氏(内保町自治会長)が新会長に就任されました。

議事は会則に基づき会長の手で進められ、まず議事録署名人に西村一位氏(尊勝寺自治会長・連合自治会副会長)と北川夏樹氏(三田町自治会

平成23年度地域づくり協議会役員			
会長	近藤 信行 (内保町)	評議委員長	清水 利展
	平田 哲次 (大路町)	総務広報部	新井かおり
	北川 夏樹 (三田町)		筑紫 弘
	杉江 利安 (大依町)	健康福祉部	金子 嘉徳
	菅井 重治 (八島町)		清水美千代
	吉田 隆 (平塚町)	安全環境部	藤田 登
	西村 一位 (尊勝寺町)		辻本 喜明
	長谷川 勉 (山ノ前町)		奥出 隆夫
	山路 隆治 (西野町)	教育文化体育部	松尾 眞
	遠藤 秀隆 (尊野町)		西川裕治
	宮本 治 (湯次町)		中川 宰之
	堀川 宏 (新三田町)		伊吹 正弘
	岩崎 寿成 (西新三田町)		北川 昭浩
	藤田 守 (野上町)	地域振興部	近藤 秀之
	吉岡 正規 (中瀬町)		中川 仁男
	中尾 重則 (北新三田町)		片桐 達夫
	床田 了 (大路楽門町)		藤森 善弘
	清水 博次 (前連合会長)		北村 譲二
	水谷 庄二 (同 副会長)		小山 義昭
事務局	饗場 真司 (事務局長)	監 事	西村 一位
	梅本 浩幸 (会計担当)		北川 義象
	饗場 鎮郎 (庶務担当)		(湯田老人会会長)

考えていない」という答弁がありました。

通常総会は約一時間で終わり、その後総務広報、健康福祉、安全環境、教育文化体育、地域振興の各部会に分かれて当面の部会活動について話し合いがなされました。各部会の当面の活動は以下の通りです。教文体部会では、湯田歴史ウォークの会」が四月二十八日に結成され、六月中旬ごろに北国協往還現地調査が行われることになっています。これ以外は昨年度の諸活動が引き継がれます。

今年度の活動計画について

第二回学区民まつりは

十月二十三日(日)開催予定

今年の総会で承認された「地域づくり計画」に基づき、協議会全体および各部会ごとに以下の事業を実施します。特に昨年多くの学区民の皆様が参加された「湯田学区民まつり」を今年十月二十三日の日曜日に開催しますので、予めお含みいただき、今年も多くの皆様のご参加で賑わいますようお願い致します。

これらの活動については、学区民の皆様のご支援と協力が何よりも大事です。また内容は今後検討され深められます。より豊かなものとなりますようご意見や要望を出していただきますようお願い致します。

一 協議会全体の事業
① 第二回湯田学区民まつり」の開催(十月二十三日実施)
② 地域づくりの先進地の研修、視察、調査の実施

二 各部会の主な行事

- 1 総務広報部会
① 広報誌「広報ふくら」の発行(年三回発行)

② 小中学校支援活動(学校やPTAと協議して企画します)

2 健康福祉部会

- ① 健康講座の開催と紹介
- ② 地域サロンの支援活動
- ③ 食生活の見直し啓発(各種料理教室を開催します)

3 安全環境部会

- ① 防災フェアの開催(湯田学区民まつりと同時開催)
- ② 自治会単位の自主防災組織の確立促進
- ③ 安全パトロールの実施
- ④ 湯田学区一斉クリーン作戦の実施などを行います

4 教育文化体育部会

- ① 愛のパトロールの実施
- ② 通学合宿の実施
- ③ 公民館活動への支援
- ④ 幼保小中学校園対象の教育・子育て講演会の実施
- ⑤ ふくらの森の植生、昆虫等の調査、環境教育に対する小・中学校支援
- ⑥ 郷土史研究会の設立(湯田歴史ウォークの会)
- ⑦ 各町の歴史・文化財の聞き取り調査
- ⑧ 北国協往還の案内看板の作成
- ⑨ グラウンドゴルフ大会の実施
- ⑩ おしゃべりウォーキングの実施などを行います

5 地域振興部会

- ① ふくらの森整備事業の継続実施
- ② 環境教育に対する学校との接触
- ③ 地産地消の啓発
- ④ 学校教育の自然観察授業の支援などを行います

総会の議案書から抜粋)

ご挨拶

地域づくり協議会
会長 近藤 信行

向夏の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、平成二十三年度の湯田学区連合自治会長のご指名を受け、更に、先の湯田学区地域づくり協議会において、その会則により湯田学区地域づくり協議会の会と

いう重責を仰せつかることになりました。もとより浅学非才の身でありそのような器ではありませんが、皆様方のご支援・ご協力により職を全うさせて頂きたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、湯田学区は自然環境が良く、まだまだ多くの自然が残っており、歴史的にも多くの史跡があり、今年のNHKの大河ドラマでも、浅井三姉妹が取り上げられ、益々、

歴史ファンから注目されてきております。

また、地域住民との繋がりが良い面と、交通が不便で特別にお年寄りが不自由な遊び場や防犯防災に不安があることといった悪い面があることも住民のアンケート調査で

あきらかになっております。湯田学区地域づくり協議会も今年で三年目になり、今まで積み上げてきた実績や

経験を活かして、今年も地道ではありますが、あせらず、欲張らないで、一歩一歩、夢とロマンをもって、ふれあいを大切にしながら、生き生きと安心して暮らせる住みよい地域づくり」を目指して活動をしていきたいと考えております。皆様方のお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶に代えさせていただきます。

今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

各部会の重点活動

今年はこんな活動をします

大きな問題もなく、平和なこの地に果たして「地域づくり協議会」が必要なのかという疑問を抱えて、三年前に本協議会が立ち上げられました。しかし、三月に起こった東日本大震災や福島原発の事故は、平和な生活やふるさとが一瞬のうちに破壊され、地域住民は分散させられ、家族もバラバラになるという事実を私たちに突きつけました。毎日テレビで放映される被災地の姿を見ると、普段からの地域住民の絆の深まりや助け合い、いたわり合いの生活や心がけが不幸を最小限に食い止めているのではないかと思われまます。

待つというも変わらない

一方では戦後間もなく、朝鮮戦争が勃発、その特需景気で戦後経済が復興し、その後の高度成長で先進国の仲間入りをし、アメリカに次ぐ経済規模を達成して国民生活も豊かになりました。しかし、そのひずみも大きく、農村の過疎化の進行で農村経済は疲弊化し、二十一世紀になって中国をはじめとする中進国の追い上げで低成長時代が続く、国民生活の格差も目立つようになりまました。その間、国家の台所は一千兆円に近く赤字で、国民へのインフラやサービス事業が今までのようにいかになくなっています。地域のことはずも自助と共助で、その結果として最後は公助で行政が手を貸すという手法が当然のようになってきました。今までのように待っていない行政がやってくれるという時代ではないのです。当地域づくり協議会で私たちは、このような現状を念頭に置いて、会員が自ら進んで、意欲的な学区民の協力を得て、

やれるところから手を付け、活動の中で補助金を取り、そして多くの人々との交流と絆を深め合っていくことを考えています。

総務広報部では、学区民の皆さんへの情報の提供を確実にし、また、皆さんからの情報を掲載して、親しみやすい情報紙を目指した編集をしていきます。めずらしいデジタル写真やいろいろな話題、子どもの善行、区民に注意を喚起することなどの記事をお送りいただければ幸いです。

健康福祉部会では、福祉の会との連携を深め、学区民の健康維持や食生活の改善を念頭に置いた企画を進めます。たちまち**六月二十五日(土)の午後一時三〇分から認知症に関する講演会を公民館で行います。多くの区民のご参加をお願いします。**

安全環境部会では、まず地域住民一人一人の防災意識を高めることを最重要課題として、各自治会が町民の協議を踏まえ「自主防災規約」制定はかるための促進剤となります。そして各町と連携しながら災害に強い湯田学区づくりに取り組みます。また従来からの子供安全パトロールや見回り隊が機能していない現状を反省し、各自治会関係者や学校、保護者とともに現状を打開します。

教育文化体育部会では、次代の郷土を支える地域づくりの人材を育てるという観点に立って諸事業を展開します。四年目を迎える通学合宿は、今までのように各種団体の協力をお願いする他に、老人会の皆さんと子ども達とのふれあいの場を設定します。北国協往還ウォークやおしゃべりウォーキングなどスポーツと学習や交流を結び付けた新たなイベントの企画や、伝

地域振興部会提案事業交付金申請書(一部抜粋)

- 事業の名称
森林空間を活用した新たな人と森との関わりを提案
～ふくらの森・魅力を引き出す活動展開～
- 事業概要
 1. 維持管理活動
 - ・昨年度、市道周辺を修景事業により整備を行った箇所の下刈り等
 2. 里道の整備
 - ・倒木や低木の繁茂で通行ができない里道を快適、安全に散策できるように調査・整備
 - ・小学生などが活用するように散策路として看板や標識を設置する
 3. 環境教育フィールド整備
 - ・一定区域の森の低木類を刈り払い、活動空間を作り、落ち葉掻き等を行う
 - ・落ち葉を集めてカブトムシ飼育や腐葉土づくりを行う
 - ・野鳥や昆虫および希少種である貴重な山野草の保護・育成活動を行う
 4. 林産物活用
 - ・森の整備で伐採された樹木の原木をシイタケ栽培の原木として利用
 - ・丸太を使って森の作業小屋を作る

○事業の公益性・波及効果
ふくらの森を活用して様々な活動を展開することは、保育園に通う園児から大人まであらゆる世代に森林の魅力と楽しさを体で感じてもらうとともに環境の重要性を認識してもらうことができると考えている。また、この森は平地林で森の中には市道も通っており、その活動の様子は多くの人の目に触れるところであり、その波及効果も十分あると考えている。

○アピールポイント
里山をフィールドとして活動することは、現状のままでは当然できないことで、森林整備を行い森林の空間を人が使えるようになると十分広がってくる。しかも、このふくらの森は平地林であり、交通の利便性も優れ、周辺に学校や福祉施設、住宅などがあり、多くの人々が気軽に訪れることができる。また、既存の教育文化スポーツ等諸施設の活用を一体的にとらえ、有効活用して子どもから大人、高齢者、障害者まで幅広い市民の健康増進、生涯学習の場とすることが可能となる。

湯田学区内二施設、連日賑わう

一月十五日に内保町の三姉妹博ドラマ館で、県知事やNHK会長、長政役の俳優、時任三郎氏が参加され、オープニングセレモニーが行われました。餅まきもあり、当日の入館者は二六〇〇名を超えました。四月、五月になると団体の入館者はウナギのぼりで、五月二日は四三〇〇名、バス八〇台とピークに



1月15日のオープニングの様子



来館者で賑わう歴史民俗資料館(1月19日)

達しました。三月の東日本大震災で影響を受けましたが、五月中ごろから徐々に回復しているとのことです。一方、大依町の浅井歴史民俗資料館でも、大河ドラマが放映された一月九日過ぎから来館者があり、五月の連休中には三万人を突破しました。一階は浅井三代に関する展示、二階は浅井三姉妹に関する展示がなされ、浅井歴史の会員約三十名がボランティアアガイドを努めておられます。おもてなしの心で接するガイドはすこぶる評判がよく、リピーターも多くなってきました。このように私たちのふるさとが全国に知れ渡っていくことは、喜ばしいことです。子ども達や若者に事実を伝え、湯田学区民が誇りと自信で一体感をもち、ふるさと再生を図って行きましよう。